



施設概要

鉄筋コンクリート造2階建て
 建築面積…………… 897.56㎡
 延床面積…………… 1,277.63㎡
 1階…………… 780.33㎡
 2階…………… 497.30㎡

利用案内

開館時間 ■ 9:00～17:00 (入館は16:30まで)
 休 日 ■ 月曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始、展示替え期間
 入 館 料 ■ 一般 ¥200(団体 ¥100)
 高校生 ¥100(団体 ¥50)
 中学生以下無料

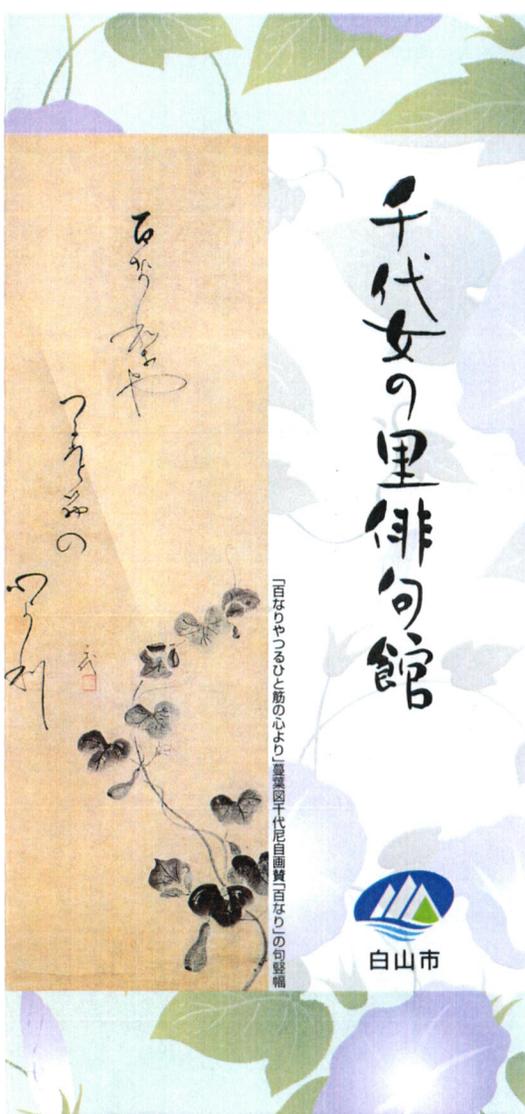


交通案内

電車をご利用の方
 JR金沢駅より11分 松任駅下車(南口側)徒歩1分
バスをご利用の方
 北鉄バス「松任」経由の路線バスを利用
 「松任」停留所から、松任駅方面へ徒歩1分
車をご利用の方
 東京、富山方面から北陸自動車道白山J.C.より約10分
 大阪、福井方面から北陸自動車道美川J.C.より約15分
※駐車場について、隣接の松任南立休館駐車場をご利用下さい。
 領料金の利用者は3時間無料です。駐車券をお持ち下さい。
 (公共交通機関のご利用が便利です。)

千代女の里俳句館

〒924-0885 石川県白山市坂町57番地1
 TEL(076)276-0819 FAX(076)276-8190
 E-mail chiyojonosato@city.hakusan.ishikawa.jp
 URL <http://haikukan.city.hakusan.ishikawa.jp/>



加賀の千代女 江戸時代を代表する女流俳人

「朝顔やつるべとられてもらひ水」の句で知られる加賀の千代女は、江戸時代を代表する女流俳人のひとりです。

千代女は、元禄16年(1703)加賀国松任町(現在白山市)の表具師、福増屋六兵衛の娘として生まれました。幼いころから俳句に親しみ、淡町、本吉(現白山市美川)の俳人達に学んだと伝えられています。

千代女は芭蕉の弟子のひとり、美濃の各務支考ちかにその才能を認められ、家族に不幸が続き中でも、俳句への強い思いを持ち続け、また、書画を学んで非凡な才能を示して行きます。

52歳で尼となった後の10年余りはめざましい活躍を見せ、文化13年(1763)には朝鮮通信使の贈り物として21句の俳句をしたためた掛物と扇子を差し出すなど、国際交流の先駆けをはたしています。

千代女の名はやがて伝説となり、民衆のヒロインとして、長く伝えられてまいりました。

千代女の里俳句館は、加賀の千代女を生んだ白山市民がたちかって来た歴史をふまえ、俳句を通じた交流・体験活動のための拠点施設として設置されました。

「千代女の里俳句館」では、千代女をはじめ多くの俳人達について、映像や作品、寄贈いただいた句集等を活用して紹介するとともに、子ども達や外国の人にも俳句を作り楽しめるようなコーナーを備えています。

また、千代女全国俳句大会や青少年俳句大会などの事業を開催するほか、愛好者の方々には気軽な句会の場としてご利用いただけます。

インターネット投句のご案内

千代女の里俳句館ではインターネットサイトで投句を募集中です。英語による投句ページも開設しております。

<http://haikukan.city.hakusan.ishikawa.jp/>

また、市内には11ヶ所の俳句ポストが設置しております。どうぞご利用下さい。



常設展示室 ● 子どもから大人まで、俳句や季節について楽しく学べます。また、千代女の直筆の掛軸等も展示しています。

千代女年譜

年号	西暦	年齢	事項
元禄2	1689		松尾芭蕉がおくのはそ道の旅に出生、7月24日松任を通る
元禄16	1703	1歳	加賀国松任の表具師、福増屋六兵衛の嫡として生まれる
正徳4	1714	12歳	本吉現在の白山市美川の半睡のもとで学ぶと伝る
享保4	1719	17歳	8月24日、芭蕉高弟、美濃の各務支考は、松任で千代女に会う 支考はこのとき「あたまから不思議の名人」と称賛する する伝がある
享保5	1720	18歳	金沢の福岡某に嫁ぐ(金沢大衆免の大組足軽、福岡各八とする伝がある)
享保6	1721	19歳	6月、金沢で、名古屋の沢露川が来遊したのに会した
享保7	1722	20歳	この頃、夫に死別し実家に帰る
享保10	1725	23歳	露川の俳諧撰集「北国曲」に入集、初めて俳句に掲載される 春に伊勢に行き、中川乙山を訪ねてその門に入った。小松の 宇中が「伝千代女書」を著す
享保11	1726	24歳	4月に、金沢の紫由女を訪ねて俳諧連歌二巻を成し、松任 郊外の行善寺(現在の白山市北安田町)に奉納した。この連 歌を小松の兎路は編集して「卯の式」として出版する
享保12	1727	25歳	美濃の嵐元坊某が松任に千代女を訪ねて、俳諧撰集「桃 の首道」の松任短歌行が成る
享保17	1732	30歳	初夏の頃上洛、乙山と京で再会する
元文2	1737	35歳	10月7日 釈宗悦 父か(「福増屋法名軸」)
元文4	1739	37歳	3月24日 釈妙祐 母か(「福増屋法名軸」)
寛保3	1743	41歳	9月20日 釈永了 兄弟か(「福増屋法名軸」)
延享3	1746	44歳	6月、建部宗茂(当時が都因と号した)が千代女を訪ねる 宗茂は、「市中に婦人の産をわすれざるを感じて」と千代 女の近況を語る
寛延元	1748	46歳	尾張の百川が加賀能登を歴遊、加賀で書画の作成が盛んになる 鶴米金彌宮奉納額に「松任表具屋千代」と記名する
宝暦4	1754	52歳	10月、朝髪し素顔と号する
宝暦5	1755	53歳	5月、山本氏(松任町年寄、米屋「左衛門」の幕碑に神句を刻す 銀札くすねにより、加賀藩領の経済混乱
宝暦9	1759	57歳	宝暦の金沢大火が起る。延焼し万余軒、金沢城壊失
宝暦10	1760	58歳	3月、金沢東照院の親鸞上人五百回忌法要に参詣する 9月、越中の井波瑞泉寺に参詣する
宝暦11	1761	59歳	京の東本願寺の五百回忌に、藤原尼と上京する この頃、狩野派画人達と多くの合作軸を作る
宝暦12	1762	60歳	1月25日 釈了相 兄または弟の子か(「福増屋法名軸」) 3月末に越前の吉崎御坊に参詣し、「吉崎紀行」をまとめる 養子六兵衛(白鳥)を迎えたのはこの頃か
宝暦13	1763	61歳	4月、金沢城二の丸御殿の再建が完了 8月末、第11次朝鮮通信使の来朝に、藩の命によって、 悪物六幅子十五本を書き上げる
明和元	1764	62歳	既白編「千代尼句集」上下冊が出版される
明和2	1765	63歳	2月中頃、飛騨の千代に求め「飛騨十景絵巻」に賛句を書き 送る
明和7	1770	68歳	大津義仲寺の芭蕉堂、三十六人肖像に、習月尼の題句を書く
明和8	1771	69歳	信濃上田の加吉白蓮は、京へ行く途中、病体の千代尼と 会する 既白の編纂で、千代尼句集後編として「俳諧の声」が出版 される
安永3	1774	72歳	与謝蕪村編「たまと集」に序文を寄せる
安永4	1775	73歳	9月8日、長く続いた病の末、長逝した 享年73歳



エントランスホール ● 無料で体験できるクイズコーナー、投句コーナーなどがあります。



おえ、中の間、奥の間 ● 遊戯となっており、庭を見ながらの体験や句会に使用できます。



研修室 ● 100人程度が利用できる講座室です。句会にも使用できます。



企画展示室 ● 白山市内の俳人の句や作品などを展示しています。



AV室 ● 「千代女 季と生きた生涯」などの3種類の映像を放映しています。



句集ライブラリー ● 千代女に関する書籍と、寄贈された句集(約3千冊)が閲覧できます。

